

2012年度 ITと人権研究委員会総括

I. 活動内容とテーマ

インターネットや携帯電話などの普及により、社会の情報化が進んでいる。非常に多くの人々が利便性を感じ情報社会の恩恵を受けているが、一方、ネットワークの匿名性を悪用した問題も起こっている。個人情報の流出やプライバシーの侵害、不正アクセス、なりすまし詐欺、著作権の侵害など問題はセキュリティから法律まで幅広く、子どもたちが被害者にも加害者にもなる危険性を大いに含んでいる。

そこで、人権問題に関するインターネットの危険性に対応するために、子どもたちの、インターネットや携帯電話を使用する意識や実態の調査をアンケートで行った。その結果、学校別・性別・学年別による実態の違いが見て取れた。望ましい情報社会に参画する態度の育成を図るため、情報モラル教育の実践に役立てたい。

II. 取り組みの経過

回	日時・場所	内 容
1	5月25日(金) 橿原市中央公民館	<p>1. 数多くある情報社会の影と呼ばれる危険性に対して、インターネットや携帯電話に関わる人権問題が子どもたちにどう影響を及ぼしているのか、どう危険があったのか等、各々の学校の実情を加味しながら、事例報告を行った。</p> <p>2. その報告を受けて、掲示板やチャットで見られる誹謗・中傷の書き込み、画像の位置情報による個人情報の流出やプライバシーの侵害について考えて、その危険性を話し合った。</p> <p>3. 視聴覚教材「アクセスの代償」を視聴しコンピュータウィルスやUSBメモリの正しい取り扱いについて理解を深めた。また、このような視聴覚教材を用いた情報モラル授業の実践ができないかという意見も出され、研究の方向性について議論した。</p>
2	6月22日(金) 橿原市中央公民館	<p>4. 研究の方向性を決めるに当たり、昨年度のITと人権研究委員会で作成されたアンケート項目について、その意図やねらいの説明を受けた。</p> <p>5. 人権啓発ビデオ「夕映えのみち」を視聴し、些細な気持ちであっても、掲示板で他人の悪口や誹謗・中傷の書き込みをすれば、取り返しのつかない事態を招いてしまうことを再確認した。また、ビデオで取り上げている題材が変化の激しい情報社会においては、今の子どもたちに関わる問題とマッチしていないということも押さえた。</p> <p>6. インターネットや携帯電話に関わる問題が多岐にわたり、かつ変化している。まずは子どもたちのインターネットや携帯電話を使用する意識調査や使用実態を掴む必要がある。研究の方向性として、それぞれの学校で昨年度作成されたアンケートを実施して、その傾向を見るということで確認した。</p>
3	9月21日(金) 橿原公苑会議室	<p>7. それぞれの学校において、アンケートを実施した。アンケートを回収して、集計結果をまとめた。集計結果をまとめるときに、学校別・性別・学年別などどのようなカテゴリーに分けて整理するのか話し合った。</p>

		<p>8. アンケート結果を帯グラフ化した。携帯電話の所持率が高い学校や携帯電話を使用する時間帯で顕著な結果を示した学校などグラフから特徴を読み取った。また、男子より女子の方が携帯電話使用率が高く、男性の方がパソコンの使用率が高いなどカテゴリーに分けた特徴を読み取ることができた。</p> <p>9. アンケートの質問数やその項目を見直した。見直しや改善の余地がないか考えた。</p>
臨地研修会	10月1日(月) 奈良県市町村会館 インターネットステーション	○問題とされる動画配信を視聴した。問題となる動画を発信することの抵抗感の薄さや簡単に動画を不特定多数に公開できる情報社会の仕組みについて考えた。
4	10月26日(金) 橿原市中央公民館	<p>10. アンケート結果をさらに追加した。合計で1500名を超えるデータが集まり、全体的な傾向や各質問における特徴を捉えた。また、アンケート項目について引き続き見直した。</p> <p>11. 生徒のインターネットや携帯電話の使用実態や意識調査を踏まえ、ネットやケータイに依存している現状を話し合うとともに、掲示板やWebページに書き込まれている誹謗・中傷内容の実態の多さを確認した。</p> <p>12. 情報モラル教育など望ましい情報社会に参画する態度を学校教育で行う必要性について述べ、生徒の取り巻く環境が日々変化している点も抑えながら、今後どのような指導方法をとっていくことが望ましいのかについても話し合った。</p>
5	1月11日(金) 橿原市中央公民館	13. 本年度の総括と来年度の課題について検討し、子どもたちを取り巻くインターネット環境の変化とその現状について、我々教員が理解を深めていく必要があることを確認した。

Ⅲ. 本年度の総括

アンケートを集計する中で、携帯電話の使用実態やその意識について、それぞれの学校、男女の違いが明らかに見てとれた。ある学校では他校に比して、自らのサイトを持ち他人のサイトを見る割合が高かったり、男女別では男子はゲーム、女子はメールを主に使うなど、興味深い結果となった。

また、調査結果から、教師が子どもたちを取り巻くインターネット環境の変化とその現状を理解し、子どもたちに対応できる力をつけることが求められ、その体制づくりが必要であると考えられる。

Ⅳ. 来年度の課題

アンケートを継続して実施することで、より子どもたちの実態に応じたデータを収集することができる。さらに、インターネットコミュニティの変化などに応じて質問項目を適宜変えることで、子どもたちの意識に迫ることができる。協力校を増やしたり、全県下でできるようなアンケートを作成したりするなど、継続的な調査を行っていくことが、今後の課題である。

スマートフォンの普及など子どもたちを取り巻くインターネット環境の変化とその現状を、教師側が迅速に把握して、子どもたちが被害者や加害者にならないために、情報モラル教育の実践に役立てたい。